

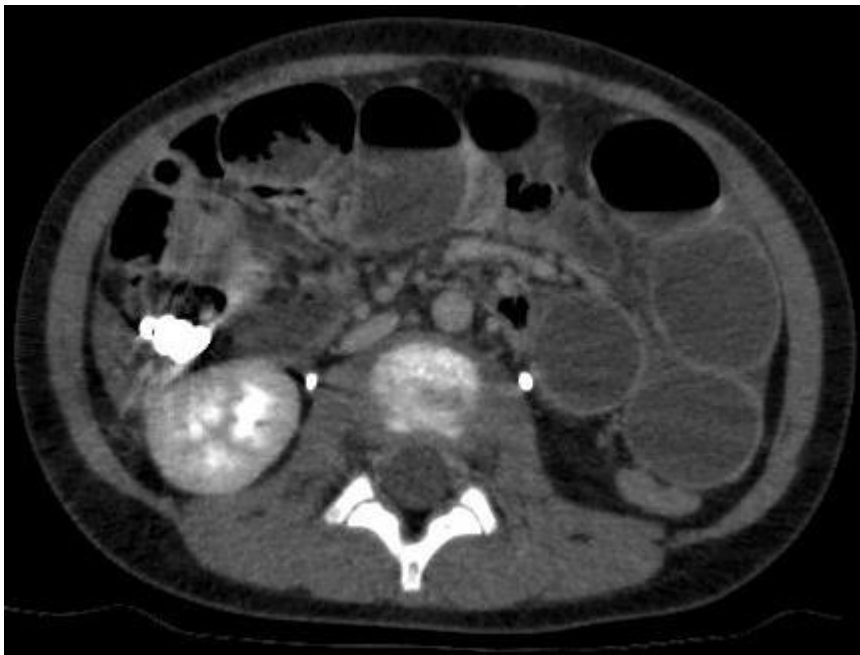
Injury Alert (傷害速報)類似事例

ネオジム磁石による小腸穿孔 (No.66 磁石と鉄球の誤飲による小腸穿孔の類似事例 9)

事例	基本情報	年齢：7歳 8か月 性別：女児 体重：27.5kg 身長：129.8cm
	家族構成	父、母、兄（小学校5年生）、姉（小学校3年生）
	発達・既往歴	熱性けいれん、その他特記事項なし
臨床診断名		小腸穿孔
医療費		入院 688,770円
原因対象	対象名称	ネオジム磁石、球、直径3mm大、216個セット
	入手経路 使用状況	インターネットで親が入手。入手時期不明 新品、兄が主に使用
発生状況	発生場所	自宅のリビング
	周囲の人 周囲の環境	兄とリビングで遊んでいた。磁石は誰でも手の届く場所（リビングの低めのテーブル）に置いてあった。
	発生日月日	2021年3月X日（火）午後2時00分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	普段から口の中に物をいれる癖があった。 X日、昼過ぎに兄と遊んでいる時にネオジム磁石を口の中に隠してそのまま誤飲した。同日午後4時頃より腹痛と頻回の嘔吐が出現した。X+1日に近医小児科を受診し胃腸炎と診断され整腸剤、制吐剤、鎮痛剤を処方され帰宅した。しかしその後も消化器症状持続し、食事摂取・水分摂取困難となったためX+3日に自家用車で医療機関を受診した。
医療機関受診時以降の治療経過 転帰		来院時バイタルは安定しており、腹部は膨満軟、臍周囲に tapping pain と腹部全体に圧痛があった。腹部X線写真【図1】で5個の球体が直線状に連なる異物像と腸管拡張像を認めた。また腹部CT検査【図2】で小腸にネオジム磁石と思われる異物と異物の口側小腸の拡張、および腹水貯留をみとめた。ネオジム磁石による小腸閉塞と判断し、同日緊急で腹腔鏡下異物摘出術、小腸修復術を施行した。異物が存在していた小腸に穿孔を認め、穿孔部より肛門側小腸に炎症の波及による漿膜筋層損傷が続いていたため縫合・修復した【図3】。術後経過は順調でX+6日に後遺症なく退院した。 本児に再度聴取したところ、怒られると思い磁石を飲み込んだことを両親に伝えられなかったとのことである。



【図 1】腹部 X 線写真。5 個の球体が直線状に連なる異物像と腸管拡張像を認める。



【図 2】腹部造影 CT 写真。小腸にネオジム磁石と思われる異物を認める。

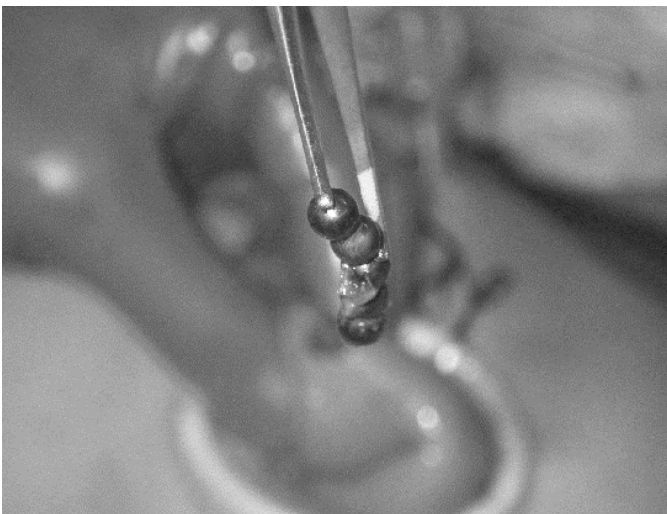


【図 3】手術写真

a. 小腸を穿孔部から横軸方向に小切開し異物を摘出した。



b. 異物が存在していた小腸に穿孔を認めた。



c. 3mm 大の球状ネオジム磁石を 5 個摘出した。